

20日 水曜

Ⅱコリント

7:8 あの手紙によってあなたがたを悲しませたけれども、私はそれを悔いていません。あの手紙がしばらくの間であったにしろあなたがたを悲しませたのを見て、悔いたけれども、

7:9 今は喜んでいます。あなたがたが悲しんだからではなく、あなたがたが悲しんで悔い改めたからです。あなたがたは神のみこころに添って悲しんだので、私たちのために何の害も受けなかったのです。

7:10 神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。

7:11 ご覧なさい。神のみこころに添ったその悲しみが、あなたがたのうちに、どれほどの熱心を起こさせたことでしょう。また、弁明、憤り、恐れ、慕う心、熱意を起こさせ、処罰を断行させたことでしょう。あの問題について、あなたがたは、自分たちがすべての点で潔白であることを証明したのです。

7:12 ですから、私はあなたがたに手紙を書きましたが、それは悪を行なった人のためでもなく、その被害者のためでもなくして、私たちに対するあなたがたの熱心が、神の御前に明らかにされるためであったのです。

7:13 こういうわけですから、私たちは慰めを受けました。この慰めの上にテトスの喜びが加わって、私たちはなおいっそう喜びました。テトスの心が、あなたがたすべてによって安らぎを与えたからです。

7:14 私はテトスに、あなたがたのことを少しばかり誇りましたが、そのことで恥をかかずには済みました。というのは、私たちがあなた



聖書の記述

がたに語ったことがすべて真実であったように、テトスに対して誇ったことも真実となつたからです。

7:15 彼は、あなたがたがみなよく言うことを聞き、恐れおののいて、自分を迎えてくれたことを思い出して、あなたがたへの愛情をますます深めています。

7:16 私は、あなたがたに全幅の信頼を寄せることができるのを喜んでいます。

パウロの手紙によって、コリント教会の人々は悔い改めて、神に逆らう人への「処罰を断行」しました。つまり教会を間違った方向に引っ張って行く人を放置しておいたことを、悔い改めたのです。

その結果、その間違った有力者も悔い改めました。教会は「潔白であることを証明した」のです。すなわち、コリント教会が主の教会であることを証明したわけです。パウロはその喜びを聴ることなく、そのままに語っています。

教会には、神のみこころに逆らうことを主張したり、行動したり、またそのような影響を与える人が出現するものです。そのような人もその考えをも放置してはなりません。みこころに合っているか反しているかは、神のことばである聖書によって判断できますし、そうすべきです。

またそこまで影響力はなくても、”あれ、違うぞ。それは聖書にある神のみこころとはずれているぞ。”と感じるような言動に気づくこともあるでしょう。そのときも、「自分が面倒なことになるといやだな。」と、当たり障りなくやり過ごさではなく、その人と教会のために、聖書のみこころについて教えてあげるべきです。

それはもちろん、自分自身がへりくだって、また愛と責任を持って、何よりも主に良く祈って聞きつつ行うべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

